

編集後記

今年の五月は平年よりも涼しく、六月になって梅雨シーズンに入ってから雨は平年よりも少なめであった。過し易い毎日はすなわに、七月が近づくにつれ例年のごとく不快指数の値は高まるばかりであった。この頭痛は気候のせいではなくて、仕事量が今年になってから一挙に増加したためと思われる。

赴任して十年以上立ち四十代に入れば仕事量が多くなるのは当然と言えば当然、それだけ信頼されるようになったという事なのであろうか。しかし、コマ切れでやらなければならぬ仕事が多くなってきたため、しょっちゅう頭を切り換える必要があつて、自分が一番集中するべきテーマになかなか集中できないということが辛い。

来年度をピークにして、以後十八歳人口が減少していくため、大学関係者は誰もが現在大忙しである。このような車近な問題に一生懸命になることももちろん必要であるが、世間の喧騒から遠ざかって静かに冥想する時間を見失つてはならないと、孤独な時間をいとおしみ、確保する努力をしている。

(Y)

平成三年七月十五日 印刷
平成三年七月二十日 発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 尾崎昭美

印刷所 豊橋市小池町
東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町
愛知大学文学會

振替 名古屋三―四五六五四